



交尾中の生態 ▶



▲ ヒメウラナミジャノメ (ジャノメチョウ科)

日陰を好み、草地から山地までの林の中や民家附近のササヤブでよく目につきます。飛び方は活発ではなく短い距離を飛んで葉上などに止まります。幼虫はチヂミザサなどを食べます。



▲ ヒロードハマキ 〈標本〉 (ハマキガ科)
開張34~60mm。



▲ ヤママユ 〈標本〉 (ヤマムガ科)
開張115~150mm。



▲ ウスバツハメガ 〈標本〉 (マダラガ科)
開張60mm前後。



▲ シロスジモエ 〈標本〉 (ヤガ科)
開張55~63mm。



▲ ヒロードナミシャク 〈標本〉 (シャクガ科)
開張30~40mm。



▲ アケビコノハ 〈標本〉 (ヤガ科)
開張95~100mm。



▲ ハッチョウトンボ ♂(上)・♀(下)(トンボ科)

日本はもちろん、世界で一番小さいトンボのひとつです。日当たりの良い草たけの低い湿地に現れます。名古屋市内の八丁畷(はっちょうなわて)で最初に見つけたので、八丁トンボと名づけられました。



▲ シオカラトンボ ♂(上)・♀(下)(トンボ科)

溜池から用水路まで、どこでもよく見かけられるトンボです。雄の体が白い塩をふいたように見えることから「塩辛」(しおから)と名づけられました。雌をムギワラトンボとむかしは呼んでいました。



▲ チョウトンボ (トンボ科)

黒味がかった紫色に輝く大きな羽をもち、溜池の上をひらひら飛ぶ姿はチョウのようです。水生植物の多い、水のきれいな池にすむトンボです。最近、池の水のよごれから、だんだん数が減っています。チョウトンボのすめる池を守っていききたいものです。

▼ ミヤマアカネ ♂ (トンボ科)

深山(ミヤマ)にいるアカトンボという意味ですが、深い山より山のふもとの水田附近に多いトンボで、熊野町では一番よく見かけるアカトンボです。





▲ ナツアカネ ♂(上)・♀(下)(トンボ科)

夏のアカトンボという意味ですが、熊野町では秋おそくまで赤くなった雄を見かけます。夏の間はまだあまり赤くなく、家のまわりの植えこみなどで夏を過ごしています。



▲ オニグモ ♀ (コガネグモ科)

体長・雌20～30mm、雄15～20mm。家の軒先などに丸い網を張ります。成体は6～10月に見られます。昼間は軒下の隅に隠れてじっとしており、夕方になると50cm～1mの大型の円網を垂直に張り、網の中央で獲物を待ちます。

▼ クサグモ (タナグモ科)

体長・雌14～16mm、雄12～14mm。平地から山地にかけて庭木、生垣などの枝の間に管状の住居をもち、20～30cmの棚網を張ります。クモは住居の入口にいて、昆虫などがかかると飛び出して捕まえます。





◀ ジョロウグモ ♀
(コガネグモ科)

体長・雌17~30mm、雄6~10mm。成体では腹部の下面に大きな赤色斑が現れます。成体は9~11月に現れます。木々の間や、やや高い所に馬蹄型で目の細かい大型の網を張ります。“秋の空の女王”とも呼ばれる美しいクモです。

チリイソウロウグモ ♀ ▶
(ヒメグモ科)

体長・雌7~8mm、雄6mm。腹部は赤かっ色で金色、銀色の斑点(はんでん)があり腹部が僅かにふくらんでいます。成体は7~9月に現れます。自分では網を張らずクサグモの網に居候(いそうろう)し、宿主のクサグモを捕食します。球形の“卵のう”数個を、宿主の網につめています。



ナガコガネグモ ♀ ▶
(コガネグモ科)

体長・雌20～25mm、雄8～12mm。草原や河原の草むら、水田の稲の間などの日当たりの良い所に、垂直な円網を張り、クモは網の中央で獲物を待ちます。危険を感じると網を激しく揺らします。



◀ アカイロトリノフンダマシ ♀
(コガネグモ科)

体長・雌20～25mm、雄1～1.5mm。頭胸部、歩脚は赤色で腹部は赤地に10個の白紋があり、テントウムシに似ています。成体は7～9月頃現れますが、数の少ないクモです。山地のススキなどの間に直径20～30cmの円状の水平な網を張ります。





◀ キツネノハナガサ

きれいな姿で見られるのは朝の数時間だけで、午後はしぼんでしまいます。紙のようにうすいので食用価値はありません。

カラカサタケ ▶

成熟して傘(カサ)が開いた姿を見つけると、思わず“やった”と言いたくなります。茎をもっとみると本当に“からかさ”のようです。食べられます。





▲ ムラサキアブラシメジモドキ

群生して発生する性質があり、集めればかなりの量を採集できます。傘(かさ)も茎もズルッとしていて全体が青紫色で見分けも簡単です。食べられます。

▼ ドクツルタケ

1本食べると死に至る恐ろしい毒キノコです。全体が白く茎にツバとツボがあり他のキノコとまちがえることは少ないですが、じょうぶな注意が必要です。





▲ アミタケ

アカマツ林下に群生し、他に似た毒キノコがないため町内ではもっとも普通に見られるおいしいキノコです。味噌汁の具に最適で、乾燥して保存もできます。

▼ ヒイロチャワンタケ

色鮮やかな緋色(ひいろ)の茶わん型のキノコです。美しいキノコには毒があるという言い伝えは、あまりあてになりません。食べられます。



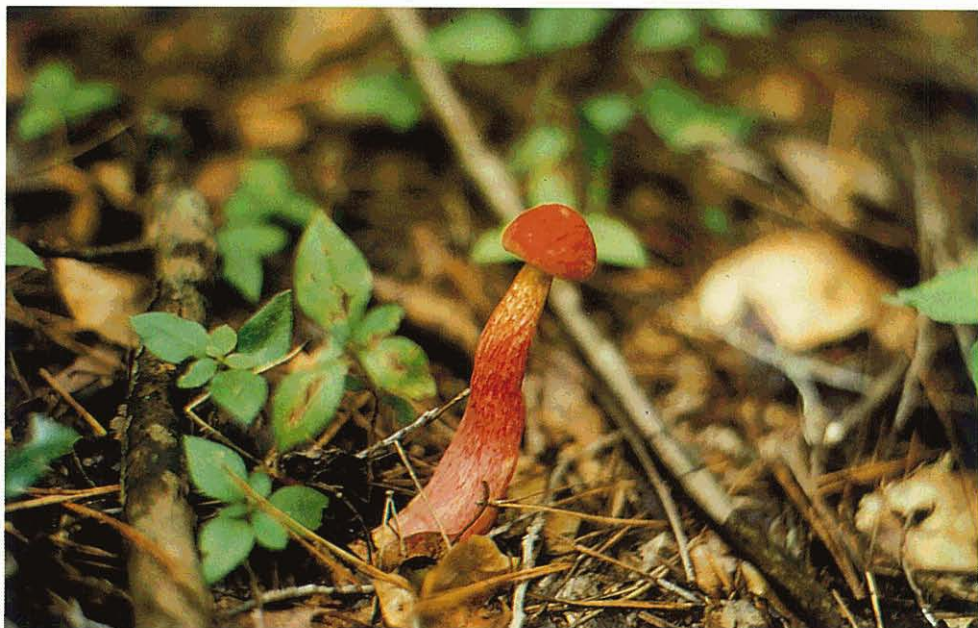


▲ ノウタケ

キノコらしくない形で、一見、パンのような感じです。中が白く若いうちは食べられますが、成熟して胞子を作ると食べられなくなります。

▼ ベニイグチ

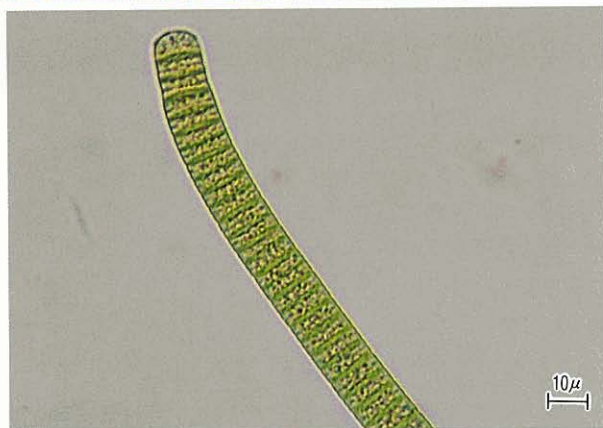
茎に網目模様のある紅色の美しいキノコです。食毒不明です。





◀ イシクラゲ
(ラン藻類)

湿った地上に見られる藻類。



◀ ユレモ (ラン藻類)

萩原区・道上で採集。



◀ スミレモ (緑藻類)

溜池に多い緑藻類。
新宮、キララ川上流の
石垣で採集。

正 誤 表

P115とP116の説明が入れ替わりです。

正

P115

P116

イケツノオシムシ
(銅緑毛藻類)
溜池などに多い藻類
毛藻類。青森県・道上
で採集。



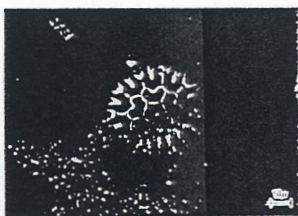
サヤツナギ
(黄色緑毛藻類)
溜池などに見られる
黄色緑毛藻類。神奈川の
溜池で採集。



クロレラ (緑藻類)
溜池などに多い緑藻
類。



サマハダクシヨウモ
(緑藻類)
溜池に多い緑藻類。



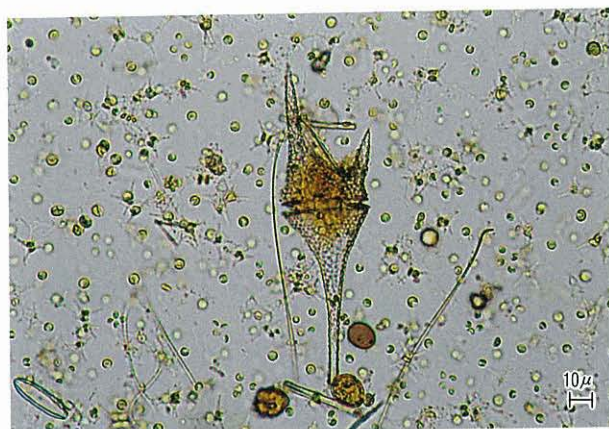
イカダモの一種
(緑藻類)
溜池に多い緑藻類。



トクズモの一種
(緑藻類)
溜池に多い緑藻類。



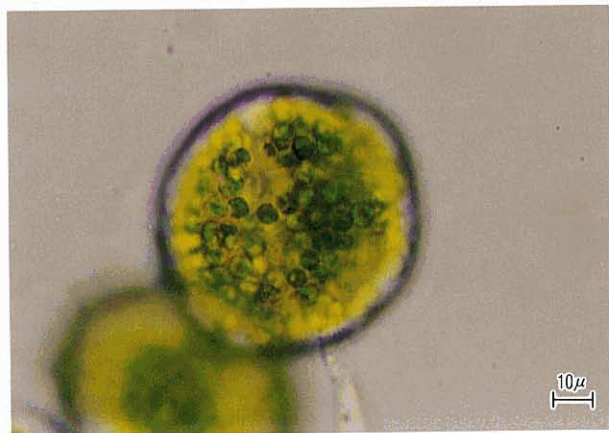
サメハダクンショウモ ▶
(緑藻類)
溜池に多い緑藻類。



イカダモの一種 ▶
(緑藻類)
溜池に多い緑藻類。



トクズモの一種 ▶
(緑藻類)
溜池に多い緑藻類。





◀ イケツノオビムシ
(渦鞭毛藻類)

溜池などに多い渦鞭毛藻類。萩原区・道上で採集。



◀ サヤツナギ
(黄色鞭毛藻類)

溜池などに見られる黄色鞭毛藻類。初神の溜池で採集。



◀ クロレラ (緑藻類)

溜池などに多い緑藻類。